

# 2023年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2024年 2月 6日

駒沢女子短期大学附属こまざわ幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- 遊び 遊びのなかで主体性を育てます
- 心 命をいつくしむ心を育てます
- 表現力 伝え合う分かち合う表現力を育てます

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 子ども同士の豊かなかかわりの中で、子どもが主体的に試行錯誤しながら活動に取り組む。
- 幼保小連携カリキュラム「ひまわりプログラム」の実践

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
I	保育の計画性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、園の特色を具現化する教育課程を編成した。長期指導計画並びに短期指導計画を作成し、子どもの実態に則した意図的・計画的な保育実践を行った</li> <li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均 98.9%を示し、保護者からも高い評価を得た。 (保護者アンケート回答率 84.3%)</li> </ul>
II	保育の在り方・ 幼児への対応	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全への配慮、幼児理解を基底とした一人一人の子どもを大切に する保育実践を行った。子どもの可能性や肯定的な側面を重視し、 子どもの思いや願いの実現を支援するかかわりに努めた。異年齢 での保育場面では、保育者が相互に連携し、すべての子どもをす べての保育者で育てる実践を行った。</li> <li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均 99.4%を 示し、保護者からも高い評価を得た。</li> </ul>
III	保育者としての資 質能力	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の保育者が、使命感と豊かな教育的愛情をもち、ワンチ ームとして機能し、高い指導力をもつ組織力の向上を図った。</li> <li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均 98.6%を 示し、保護者からも高い評価を得た。</li> </ul>
IV	保護者への対応	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の思いや願いに真摯に向き合い、必要に応じて組織的に対 応を行い、保護者と共に子どもの成長を喜ぶことができた。</li> <li>・登降園時等の短い時間にも子どもの成長の様子を積極的に保護者 に伝えた。</li> <li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均 97.2%を 示し、保護者からも高い評価を得た。</li> </ul>
V	地域とのかかわり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣小学校と連携を図り、幼小連携カリキュラム「ひまわりプロ グラム」を策定・実践し、子どもに就学に対する期待感と安心感 を与え、保育者と小学校教師が互いに学び合う取組を行った。</li> <li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均 97.3%を 示し、保護者からも高い評価を得た。</li> </ul>
VI	研修	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長自らの小学校教師としての経験と知見を活かし、小学校教育 を覗んだ保育の在り方について、研修会を行った。また、大学と 連携できる強みを生かし、大学教員による専門性の向上を図る研 修を年3回行った。</li> <li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均 99.1%を 示し、保護者からも高い評価を得た。</li> </ul>

(評価 A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の重点的目標である「子ども同士の豊かなかかわりの中で、子どもが主体的に試行錯誤しながら活動に取り組む」実践について、保育者の連携のもと、一丸となって取り組み成果をつくることができた。</li> <li>・同じく本年度の重点的目標である幼保小連携カリキュラム「ひまわりプログラム」の策定・実践では、近隣小学校と連携し、園児・児童の交流(2回)、合同避難訓練(1回)、教職員の合同研修(3回)、園長・校長連絡会(3回)を実施することができた。</li> <li>・上記の実績に加え、自己評価結果及び保護者評価結果、学校関係者評価委員会意見を精査し、今年度の総合的な評価として、十分に達成されているものとする。</li> </ul>

(評価 A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	地域社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は、地域教育懇談会(稲城市教育委員会所管)において、地域諸団体に対して、本園の教育方針の理解を図った。令和6年度は、さらに地域諸団体との連携を促進する。</li> <li>・地域環境を生かした保育実践をさらに取り入れていく。</li> </ul>
2	保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメントを行い、子どもの総合的な学びを育み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程を編成する。</li> <li>・すべての保育者が、幼稚園指導要領のさらなる理解に努め、教育課程の具現化を図る。</li> </ul>
3	研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育におけるデジタル音楽表現の可能性など、新しい教材や子どもの興味関心に即した教材について、専門性の向上を図る。</li> <li>・専門性の向上と保育実践をつなぐ幼児理解と指導技術の不断の研鑽に努める。</li> </ul>

#### 6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・本園の運営並びに教育活動について、6項目の評価観点から学校関係者評価委員として保育参観、園長・保育者に対するインタビュー、具備すべき教育課程・指導計画の確認、自己評価結果及び保護者評価結果を精査した結果、総合的な評価として、十分に達成されているものと評価できる。
- ・何よりも本園の実践の確かさは、子供たち一人一人のその子らしい育ち姿により、十分に評価できるものである。
- ・その実践の確かさを裏付ける本園のよさ・強みは、園長はじめ保育者の子ども一人一人の個性や可能性、伸びる力を信じる姿勢と、管理職・保育者・事務職員が組織的に協働して、すべての子どもをすべての職員で育てる実践にあると言える。
- ・すべての子どもをすべての教職員で見守るあたたかなまなざしのもと、子どもの今と未来に笑顔溢れる保育実践を今後もすすめていただくものと期待する。